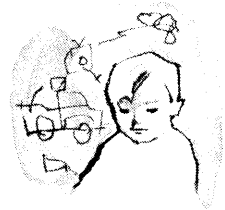


自然のあそび



加 奥 愛 子

縁側の下で、二歳の誕生日を迎えようとする孫が、パパの買ってきた砂で、夢中に素足になって遊んでいる。原始の時代から土に親しんだ人間の姿そのままに、再現しているようなようです。また水遊びをしている時も、他の玩具以上に、興味をもち長く遊んでいる。園児が「鉄わん」といって、つくっていた泥んこの玉が、手でさわわり、砂をかけ、つばをかけ、ねりにねり、さわりにさわって、柔らかな土が、かたい鉄のようになり、落としても、われない玉に出来上がっている。その時の生き生きとした眼、手の動き、真剣な顔、が思い出されてくる。

子どもは、高価な玩具より、自然の遊びが大好きのようである。水、空気、太陽、自然の恩恵により人間は、生存を保ち、人間らしく人格形成をなしていく。現代の都会の子どもたちは、自然と接する機会が少なくなり、遊びも、昔のように自然のも

ので玩具をつくり、遊びを考える事が少なくなってきた。

最も発育がめざましく、肉体的にも、精神的にも人間の基礎の出来上がる大切な時期に、室内遊びが多く、塾やお稽古事で忙しく、昭和四十四年に調査した時も、一二〇人の中、オルガン二十九人、書き方十八人、ピアノ十二人、絵十一人、バレエ一人、何もしないのが四十九人で、半数以上の園児が何か習っている。テレビを見る時間が、二時間四十六人、三時間三十一人、一時間二十人、一・五時間十六人、四時間五人、〇・五時間二人、で、余暇をテレビで遊んでしまう現状である。

公園や動物園へいくかの質問に、行く一五十七人、時々三十六人、行かない一十八人、無記入一十九人で、遊び場がないので、公園を利用しているのが半数近くあり、半数は、その利用も少なく、全然行かない子どももいる。太陽から離れて、もや

しっ子が増えていく。体格は、栄養が足りてよくなっているわりに、体力が劣り、骨折も増えている。去年の夏ヨーロッパを回った時、ライン川の舟の中で、はだかんぼの子どもがいてお行儀が悪いなと思ったが、案内人の話では日光浴を今の季節に充分しておかないと、早く冬が来るとの事だった。またオーストリーの山の上でも、テーブルを庭に出して、家族が食事をしてる風景、スイスのチューリッヒ湖畔で、赤ちゃんを乳母車に寝かせて、家族で散歩をしているなど、自然に接し、日光に浴する事を、心してしているように思われた。

フレールは、人間は単に自然の形と姿との多様性を認識するだけでなく、自然の統一、自然の内的活動性ないし自然の影響をもまた理解せざるを得ないようにできている。そしてそれゆえに、彼自身がまた彼の発達との陶冶との過程において、自然の過程に従うのである」といった。だから彼は、彼の遊戯においてさえ自然の創造過程を模倣する。

〃自然との接触はすべて人間を高尚にし、力強くし、純化するものである。だからこのような自然は、あたかも気高い偉人のように、人の心をひきつける。授業の許す場合には、いつても自然における生活であり、自然と共にする生活であった。近くの高い山の頂から、私は、鮮かな、そして静かに沈み行く太陽や、はるか彼方から、ばら色の光に輝く残雪や、水河やアル

プスの山脈を眺めて楽しんだ。実際に夕方の散歩は、晴朗な日の落ちるころは、私に欠くことのできない必要なものだった。照らされている広い岡の上を、あるいは、水晶のように清らかな、そして鏡のようになめらかな湖水の静かな岸辺に沿って、あるいは高い林樹のうっそうとした葉間の道を逍遙する時、私の魂と私の心情とは純粹な神の実在と、人間の高き価値との理念に充ちて、私は幸いにも人間を神の愛児と考えることができたと”といって人間教育に自然の教育の必要性をいっている。

都会では遊び場がないということ、日々に激化する交通の危険の中に、生命の安全を第一に考え、制約があり、のびのびと戸外遊びをする事ができない。友だちとの交流も少なく遊び方を知らないといわれている。祖父母、父母、青年、と受けつがれた幼いころの遊びが、急になくなりつつある。日本のよきもの、わらべ歌と共に遊んだ伝統のものは残して伝えていきたい。

現代の遊びを調査した学生のありのままの感想をあげると、次のようなものである。

●今の子どもは遊び方を知らない。高価なものを親が与える。
●母や祖母が、そつと私のために愛情のこもったものを作ってくれた。私の子どもにもしてやりたい。

●現代の玩具が増えたといつて、幸せといい切れない。

● 昔の玩具は、夢があり、創造性にみちていた。自分で考え出す遊びが、いまは少ない。

● 手づくりのものは、心の成長にすばらしい影響を与えると思う。

● 私の時代は、テレビがなくラジオで、絵本を読んでもらった。

● 祖母の時は、男の子と遊ぶと叱られた。祖母は貧しくて玩具で遊ぶ、子守りをしたり、内職を手伝ったといっている。

● 昔より本物そっくりの精巧なものが多いが、玩具に魂がない。

● お金さえ出せば、手に入る時代。テレビが出るころより戸外遊びが少ない。

● 交通事故、誘拐等の理由から遊び場が少なく、かわいそう。

● 今の子どもは、すぐにあきたり、疲れたりする。私の小さい時は、自然を利用して健康的に遊んだ。

● テレビの人気ものの放映が終了すると、玩具の方も姿をけすといわれている。

● 親は、よしあしより、高価なみかけのよいものを与える。

● 現代の子どもは、物を大切にせず、素朴さを忘れていく。

● 玩具の与えすぎの悲劇である。

● 私が初めてゴムまりを買ってもらったうれしさは、忘れら

れない。

● 祖母の時代の方が創造性に富んでいる。子どもが創造する玩具がほしい。

● 自然を利用して、健康的に遊んだ昔の人と、スモッグの町に住む現代っ子の考え方の相違点も環境からきていると思う。

● 手づくりの玩具から既製のものになり、さびしい。私たちは、めぐまれていた。今の子は勉強で、祖母の時は、仕事で遊べない。

● 昔も今も同じ子どもだから、表で走り回りたいであろうと思ふ。

● 国民全体が裕福になってきたことも一つの原因だが、だんだん外で遊ぶことが制限されてきた。

● 現代の発展してきた中間に、私等はいたと思われる。母の時代と同様、カブト虫、ホタル等、デパートで売っていないで、とりに行った。

● 今の玩具は、親切であるようで、不親切、こわれると使えない。

● 物質不足で、簡単なものが多かったが、のびのびと広い場所ですり回り、ころび回って遊んだ。玩具が増えたが、遊びが、こじんまりとしてきた。

● 学校や幼稚園が補うことになり、教師になった時の責任は

あそびの種類と年齢との関係

(ビューラー)(%)

| 年 齢 | 感覚あそび | 模倣あそび | 受容あそび | 構成あそび |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 0 : 0 | 110 | — | — | — |
| 1 : 0 | 82 | 6 | 12 | — |
| 1 : 6 | 59 | 26 | 15 | — |
| 2 : 0 | 27 | 41 | 14 | 18 |
| 2 : 6 | 6 | 50 | 22 | 22 |
| 3 : 0 | 10 | 55 | 18 | 17 |
| 3 : 6 | 3 | 62 | 3 | 32 |
| 4 : 0 | 3 | 67 | 6 | 24 |
| 4 : 6 | 12 | 25 | 26 | 37 |
| 5 : 0 | 11 | 14 | 18 | 57 |
| 5 : 6 | 16 | 13 | 7 | 64 |

重大である。

学生たちは、実際に経験した事、見た事、聞いた事を通して、現代の子どもの状態を知り、今後の保育は、どうあらねばならないかを把握しようである。年々進んでいく都市化現象は、子どものまわりから、自然を奪ってしまつて自然に親しむことも少なくなり、生活経験を貧弱にしている。幼児自身が体を通して経験することが少なくなり、創造はすでに知られている事実の新たな結合によるといわれ、無からは、創造は生まれない。また幼児の個性は、遊びによって発達していく。子どもが成長しつつある能力を最大限に実現する遊びは、知識、技能、社会性、情緒性についても、これを総合した姿で、形成していく働きをもっている。遊びの種類と年齢との関係を上にしるす。

小さい時から木にのぼったり、走ったり、とんだりして慣れている子はしくじることが少なく、あまり外遊びのできなかった子どもが問題を起こすといわれる。好奇心をおさえると、創造力も、物事に対する意欲も、もたない子どもになり、欲求が満たされずに反抗的になる。性格的にいじけてのびのびした明るさがなくなってしまう。木のぼりは、力もいるが、同時に勇氣、決断力、注意力がある。自分の力をためし、自信をつけていく。ボール遊びで、目と手の協応性、石けりや平衝感覚、なわとび敏捷性、瞬発力、等体を動かすことによって、諸機能の

発達を促す。テレビにばかり夢中になり、室内遊びで幼年時代をすごすと子ども同志の社会性もなくなり、自分勝手な考え方をして、人の気持ちのわからない片よった人間になる恐れがある。友だちと仲良くしたり、けんかをしたりしているいろいろな個性の仲間ともまれて、情緒的、道徳的、能力も養われていく。心してよい遊び場環境に入れてやらねばならない。

最近のニュースで、空気、水の汚染が、このまますすむと人類の生存もむずかしくなってくる事を報じている。私は奈良県に住んでいるが、奈良県の緑の多い所でも、学校、工場はもちろんの事、各戸が一木一戸に植える運動が始まってきた。私たちは、毎日二万リットルの空気を吸って生きているといわれ、その空気の中の酸素は、樹木が与えてくれている。あるドイツ人は、自然に生長した五〇年以上のブナの樹一本で、十二人の人々の呼吸に必要な酸素が供給されているといっている。密閉したガラスびんに、ネズミを入れるとすぐ窒息しそうになるが、葉のついたハッカの枝を入れてやると生きかえることに気がついた（一七七一年）ジョセフプリーストリーの発見より光合成の研究がなされているとの事、光合成とは、光のエネルギーを使って、水と空気からとった原子を結合させ栄養価の高い種類の分子を作る。その時副産物として、遊離酸素が放出され、人々の生命をささえる大気をきれいしてくれるのである。

また陸上植物の二倍以上の光合成が、海洋で行なわれている。海洋で光合成にあずかっているのは、おもに藻類である。生物が陸上に現われるはるか以前から、有毒な気体だった地球の大気を呼吸できる空気に変える働きをつづけ、それに二十五億年ぐらいかかったであろうといわれている。またジャック・ピカール教授は、地球上の酸素の大部分は、海面近くに住む原始的な植物、プランクトンが生産している。海面に油の膜ができる植物プランクトンが絶滅して、海中の生物系が破壊されてしまう。科学の進歩と文化の発達は、めざましく、夢に描いた月の世界へも行ける時代に到達し、テレビで世界の状況が手にとるようにわかる便利な生活、その恩恵も大きいだが、反面それにもまして、人類の生存自体が、危くなってきた現代、何としても、幼子の生命、人間の尊重を、今ほど真剣に考えねばならない時代はない。自然にかえれと叫んだ、フレールベルの声に耳を傾け、教育の原点に帰らねばならないと思う。

（大阪キリスト教大学）

参考書

「フレールベル自伝」

長田新訳著 岩波書店

「あそびの心理と指導」

小口忠吉著 福村出版

リーダーズ・ダイジェスト

7月号 一九七二年版